

利賀っ子だより



R5. 2. 10

○ 休み時間の姿

最近、子供たちの間では、「転がしドッジボール」「コマ回し」が流行しています。

「転がしドッジボール」は、高学年が低学年に声をかけて誘ったのが始まりですが、今では、1年生がボールを持って高学年が来るのを待っています。ボールの数を増やしたり、外野の数を増やしたりするなどルールを自分たちで変化させて楽しんでいます。時には、中学校の教員と一緒に活動して下さることもあり、プレイルームからにぎやかな声が聴こえます。



【中学校の先生も一緒に】



【紐のかけかたが決め手！】

また、「コマ回し」は、低学年が生活科「昔の遊び」、3年生が社会科の学習「昔の暮らし」で体験しました。紐の巻き方や投げ方によってコマの回り方が変わってくることが子供たちのチャレンジ精神を刺激したようです。掌の上で回す「手のせ」、紐でコマをすくう「綱渡り」、コマが紐を伝って登っていく「線香花火」など、家の人に聞いたり自分たちで命名したりした技を学年を問わず、夢中で練習しています。

学年や男女を問わず、声をかけ合い、和やかに活動できるのは、数ある利賀っ子の素敵なおとりの一つです。

○ 帽子づくり教室

今年度のクラブ活動は、地域の方に指導していただく機会をできるだけ取り入れています。今回は、「谷帽子」の谷和彦さんを講師にお迎えし、帽子づくり教室を行いました。

針と糸を使って縫い合わせていく作業に、低・中学年は、「初めて縫った。」「縫うのは、意外と簡単。」などと言いながら、縫い目を揃えようと慎重に運針していました。家庭科で手縫いを学習した5・6年生は、下学年の様子を気かけながら活動し、「なんか無の境地」「集中すると声が出なくなる」など、ものづくりの作家さんの気分を少し味わっているようでした。

丁寧に作業を進めていたので、時間内に帽子は完成しなかったのですが、「続きは、いつしますか。」「家で続きをやりたいな。」などの声から、一枚の正方形の布が帽子に仕上がっていく過程を楽しみ、よりよいものに仕上げようとする意欲や自分で作る作品への愛着をもったことが伝わりました。縫い糸の色選び、縫い方等に一人一人の個性が見えるようでした。

お忙しい中、材料や用具の準備をしていただき、子供たちに丁寧に分かりやすくご指導いただいた谷さんに感謝したいと思います。谷さんと一緒に作った帽子をかぶって歩いている利賀っ子がおりましたら、ぜひ、お声掛けをお願いします。きっと、自分の苦労したところ、工夫したところを伝えようと思えます。



【布には“みみ”があります】



【この帽子の名前、何にしようかな】

(高田 公美)